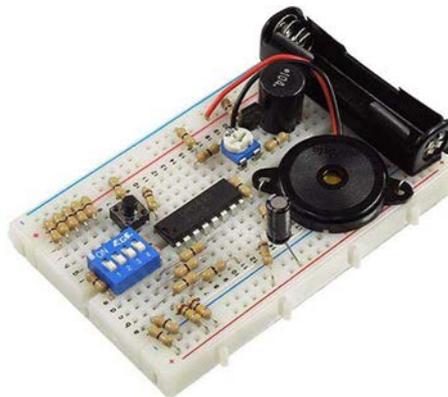


別紙

1. テーマ名 「電子オルゴールを作ってみよう」

1.1 概要

ブレッドボード上に電子部品を配置することで製作できるオルゴールキットを用いて、電子回路の仕組みを体験してもらいます。その後にブレッドボードと同じ配線パターンをしたユニバーサル基盤へ部品の取り付け及びはんだ付けを行い、オルゴールを完成させます。



1.2 講義内容

電子回路の基本的な話から、オルゴールキットに付属している IC 等の電子部品に関する説明を行います。

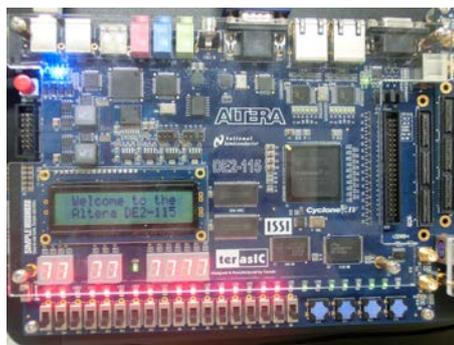
1.3 実験・工作

ブレッドボードを用いて基本的な回路の製作を行います。その後オルゴールキットをはんだ付けして制作してもらいます。完成したキットは持ち帰りできます。

2. テーマ名 「電子回路(FPGA)を使ってストップウォッチとルーレットを作ってみよう」

2.1 概要

近年、さまざまな電子機器（例えば携帯電話やテレビ等）において使われている集積電子回路:FPGA（書き換え可能な LSI）を用いて、簡単なストップウォッチとルーレットを作製します。コンピューターなどに使われているデジタル回路の演習にもなります。



2.2 講義内容

デジタル回路の話、2進数の説明をした後に、配布するサンプルプログラムを集積電子回路である FPGA にデータを転送し、LED を光らせます。

次に、簡単な例題を解く演習を行った後に、FPGA を用いてストップウォッチ等の作製を行います。

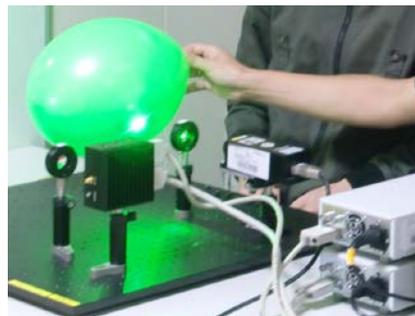
2.3 実験

VHDL と呼ばれるハードウェア記述言語を用いてプログラミングを行い、ストップウォッチとルーレットを作製します。作製したあとで、スイッチを押して動作確認を行います。一人一台の実習ボードを用意しますので、各自のペースで作製できます。

3. テーマ名 「光と物質の相互作用を知ろう」

3.1 概要

光は我々の暮らしに欠かせないものです。ものが見える、ということは光の存在抜きでは語れませんし、太陽からの光なしでは現在の地球上の生物の繁栄はありません。現在、私たちは光を人工的に自由自在に発生、制御することで、日々の生活に役立っています。レーザーは20世紀の3大発明の一つといわれており、21世紀の今日も光を用いた技術はますます重要になってきています。本テーマではその光と物質の関係がどのようなになっているか、その基礎を講義するとともに簡単な実験を通してそれらを理解していきます。



3.2 講義内容

まず、初めにレーザー光を用いて風船が割れるかどうかの実験を演示します。その結果を通して光とは何か、色とは何かについて概説します。そして、レーザーの原理について解説します。また、光の波動性に起因する干渉や回折、偏光などについて解説し、実験を通じてより深く理解していきます。

3.3 実験・工作

- ① レーザーによる風船割り実験を演示します。
- ② 偏光板を用いた「見えるけど触れない壁」の工作をします。
- ③ レプリカ回折格子を用いた簡易分光器を作製し、色と波長の関係について学びます。

4. テーマ名 「プラスチックから電池～導電性高分子の作製とエレクトロクロミズム～」

4.1 概要

我々の身近にある携帯電話など軽量のデバイスに使われる電子材料は、電気の流れる金属やシリコン半導体だけは作られていません。電気性能とともに“軽量である”ことも求められており、金属やシリコンだけで作製した場合、非常に重く、持ち運びには不向きです。一方、金属などよりも軽量のプラスチックは普通電気を流さない絶縁体（ガラスなどのように電気が流れない物質）です。しかし、電気の流れるプラスチックも存在し、それらを利用することで、タッチパネルや軽量のデバイスが開発されています。本講義では、この電気の流れるプラスチック（導電性高分子）と、それを利用した簡単な電池の作製を行います。

4.2 講義内容

高分子に関して学び、導電性高分子の合成法の一つである電解重合を学びます。次に、電池の仕組みと電流が流れることで物質の色が変化するエレクトロクロミズムという現象に関して学びます。

4.3 実験・工作

金属板上にアニリンという有機分子から作られる導電性高分子の薄膜を作ります。作った薄膜は異なる溶液に入れて電池から電流を流すと、薄膜が黄色から濃い緑に色が変わります。その深い緑色の状態は電荷がたまっている電池として駆動できる状態です。これにブザーを接続し、電池としての性能を評価します。

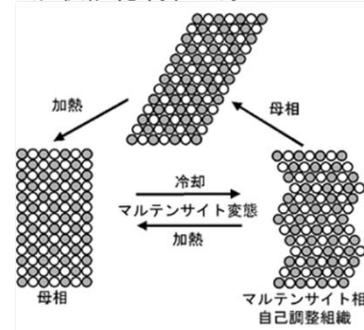
5. テーマ名 「形状記憶合金に触れてみよう」

5.1 概要

形状記憶合金(Shape Memory Alloy)とは、形を覚えさせるための熱処理を施すと、化学組成などで決まる特定の温度より低い温度で変形しても、その特定の温度以上に加熱すると、覚えさせられた(記憶している)形に復元する性質の金属材料です。また形状記憶合金のもう一つの特徴には「超弾性」があります。これは特定の温度よりも高い温度で力を加えるとばねのような可逆的な変形が生じる現象です。



形状記憶特性 原理



5.2 講義内容

形状記憶特性の主役は金属の“マルテンサイト変態”という現象です。講義ではまず、この相変態の特徴を勉強して、実際に形状記憶合金に触れて、その特性を体験しましょう。

5.3 実験・工作

実際の形状記憶合金に対して、形を覚えさせる熱処理を施します。その際、自分の好きな形に形状を変化させて、熱をかけます。その後、強く変形させてあげて、加熱して、実際に形状が回復する現象を見てもらいます。また、自分の干支の動物に形状記憶されたプレゼントもあります。

6. テーマ名 「プリズムを作って、光を操作してみよう」

6.1 概要

プリズム (prism) は、光の波長 (色) によって材質の屈折率が異なる『分散』、プリズムを出る光の方向を波長によって変わる『分光』、光を屈折率の大きい媒質から小さい媒質に入射する場合、境界面を透過する光はなく、入射光は全て反射させる『全反射』のように光を操作することができます。このため、ガラスやアクリルなどの透明な材料で構成されており、双眼鏡や一眼レフカメラのファインダーなど光の進む向きを変えるために、これらの性質は利用されています。本講義では、講義と簡単な実験を通し、分散・分光・全反射について学びます。

6.2 講義内容

始めに、光の概念を学習します。ここでは、目に見える光と見えない光の世界を体感します。次に、光の進路についての幾何光学を習得します。さらに、異なる媒質界面での屈折現象 (スネルの法則) から本実験内容の理解を深めます。



6.3 実験・工作

- ① アクリルプリズムを作製します。
- ② 太陽光を分光します。
- ③ 全反射実験によるプリズムの屈折率を求めます。